

教育開発推進機構 NEWSLETTER

教育開発ニュース

KOKUGAKUIN University 令和 5 年 (2023) 3 月 1 日

VOL. **27**
NEWSLETTER

目次

- 『教育開発ニュース』休刊の辞…………… p.2
- 『教育開発ニュース』全27号 主要記事一覧
～14年間の歩みを振り返って～…………… p.3
- シリーズ「國學院大學の教育は、今」(最終回)
学部1期生と語る 観光まちづくり学部の学び…………… p.6
- 学生サポーターの取り組み
—この2年間の活動を通じて—…………… p.11
- 令和3年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」受賞者からの声…………… p.13
- 教育開発推進機構彙報…………… p.15
- 教育開発推進機構オンライン講演会・研修会開催報告…………… p.16
- 啐啄同時 —編集後記—…………… p.16

『教育開発ニュース』 休刊の辞

教育開発推進機構長 石川 則夫

教育開発推進機構は、平成21（2009）年4月に、教育開発センター・共通教育センター・学修支援センターの3つのセンターを擁する、大学教育にかかる調査・研究機関として設置されました。

その際に、教育開発センターの前身である「國學院大學FD委員会」によって刊行されていた、FD事業に関するニュースレターの刊行を受け継ぐかたちで創刊されたのが、この『教育開発ニュース』です。本誌では、従来よりもさらに多角化した、本学におけるさまざまな高等教育・大学教育に関する取り組みの紹介を行ってきました。

本機構の推進する事業や企画、調査・研究成果の報告はもとより、本学の先生方が実践して来られた特色ある授業の紹介。機構のスタッフとして教員の授業をサポートしたり、学生の学びを支援したりする学生たちの取り組みの報告。また、日々学びに勤しむ学生たちの、本学の教育や授業に対する率直な声に耳を傾けるインタビュー。あるいは、機構の教員が日々の大学教育等に関する調査・研究の中で触れた良書の紹介など、本機構の単なる〈年間業務報告〉に留めることなく、國學院大學の「学士課程教育」のありようを学内外に広く紹介する〈広報誌〉であることを常に意識しつつ、本学および他大学の教職員、さらには学生へ向けて刊行を継続してきました。

発足年の後期に第1号を発刊。その後、2年目となる平成22年度からは、年間2号のペースで刊行し、今号に至るまで、14年間で27号を発行するに至っております。

その一方で、刊行主体である教育開発推進機構については、開設から十余年をへることから、その組織改革の必要性について数年間にわたり関係各部署と協議を重ね、より実効性の高い組織へと組み替える方途を模索してまいりました。ますます多様化している学生の実態に即した教育支援・学修支援を提供できる組織へと再構築するため、さらに充実させていくべき業務に傾注するとともに、一定の役割を終えたと思われる業務等については整理を行い、現在から近い将来において、よりよい学生・教職員へのサポート体制を整えていきたいと考えております。

そうした中で、このたび、長年本機構に配属されておりました専任教員を学内他機関へと移籍するとともに、その後の業務を担う、より高度な専門的知識と経験を有する専任教員を迎えて、令和5年度には新たな教育開発推進機構がスタートいたします。

この『教育開発ニュース』の発行についても、これまでの本機構の取り組みを学内外に紹介していくという本誌の主たる役割はおおむね果たされたものと考え、今号をもちましていったん休刊とさせていただきたいと思っております。新たな教育開発推進機構の組織が整った際には、再刊を期するということで、長年ご愛読くださった皆様におかれましては、なにとぞご理解いただければ幸いです。

末尾となりましたが、これまでいただきましたご支援について、改めて御礼を申し上げます。今後とも、本機構の業務・活動に、引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和5（2023）年3月1日

教育開発ニュース

全27号 主要記事一覧

～14年間の歩みを振り返って～

年度	No.	発行日	主要題目・特集
平成21	1	2009.11.4	○創刊に寄せて・発刊の辞・教育開発推進機構各センターの紹介 ○新任教員対談会 ―授業担当の準備と実際― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(1)
平成22	2	2010.6.30	○平成21年度SA（スチューデント・アシスタント）第Ⅰ期担当者ヒアリング会 ○経済学部FD活動～学部共通必修科目「日本の経済」での取り組みを中心に～ ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(2)
	3	2011.1.12	○学修支援センター開設1年！―現状と課題― ○授業をどうする～歩みはじめた人間開発学部FDの現状と課題～ ○第Ⅲ期SA座談会～学生視点で大学授業を考える～ ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(3)
平成23	4	2011.7.30	○教育開発推進機構設立3年目 新機構長・センター長挨拶 ○教育開発シンポジウム「建学の精神」の過去・現在・未来―私立大学の個性輝く教育とは ○自分史～社会のなかでの自己活用力養成プログラム～ ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(4)
	5	2012.1.30	○「学生主体型授業」の試み―山形大学の事例から― ○ハッピースクールライフ―卒業への一歩―（学生座談会） ○どうですか、國學院は？―新任教員の感想記― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(5)
平成24	6	2012.7.25	○後期履修上の注意点 ～年度末に泣かないために～ ○ケータイ「×」からケータイ「◎」へ～中部大学におけるモバイル・ラーニングの試み～ ○ワークショップのススメ ～より良い授業への気づきをめざして～（本学教員参加体験記） ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(6)
	7	2013.1.31	○國大生、中国・南開大学でセメスター留学体験を語る ○前期履修上の注意点～楽しい夏休みを迎えるために～ ○七転び八起き―卒業体験記― ○SA特集「図書館なんてコワくない！」 ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(7)
平成25	8	2013.7.31	○教育開発推進機構 センター長挨拶 ○國學院大學創立130周年記念事業・平成24年度教育開発シンポジウム 「私立大学における学士課程と教養教育のこれから ―建学の精神・キャリア教育・質保証―」 ○走り始めた新任教員研修 ―よりよい授業を学生に提供するために― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(8) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
	9	2014.1.31	○SA特集「SAのホンネ!? ―授業補助を通じて考えたこと―」 ○大学FD研修会 参加報告（本学教員参加体験記） ○平成25年度FD講演会 開催報告 「主体的に学び続ける学生をいかに育成するか ―アクティブ・ラーニングの可能性―」 ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(9) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―

平成 26	10	2014.8.31	○教育開発推進機構 ランゲージ・ラーニング・センター発足 ○國學院らしい教養をもとめて ― 教養総合科目の改編と「國學院科目」「教養総合演習」 ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(10)
	11	2014.12.22	○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(11) (巻頭特集) 「経済学部におけるグループワークを中心とした基礎演習Aの実践について」 ○OBと語ろう！ スチューデント・アシスタント同窓会 ○ボランティアステーション始動 ○『教員力ステップアップ講座』発行しました！！ ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
平成 27	12	2015.9.1	○巻頭特集 第3ステージを迎えた教育開発推進機構 新機構長・センター長挨拶 ○Welcome to LLC！！ 欢迎来到LLC！！ ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(12) ○ベストティーチング賞！！受賞者の表彰式を行いました ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
	13	2016.2.29	○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(13) (巻頭特集) 「國學院大學 アクティブラーニング新展開！」 ○ボランティアステーション活動報告 ○SAインタビュー「あなたにとっての英語とは？」 ○名著探訪 ―高等教育、この1冊― ○平成27年度 学外FD研修参加者報告
平成 28	14	2016.9.1	○学びのあゆみをお手伝い ―國學院の専門教育課程と学びの支援― ○知識を聴く場から学生の学習活動の場としての授業へ ―他大学における中大規模授業活性化のとりくみ― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(14) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
	15	2017.2.1	○先生になりたい人集まれ！！ ―教職センターってこんなところ― ○みんなの学びをサポート！ ―困ったことがあれば、いつでも学修支援センターへ― ○特集・國學院大學における「理想」の授業とは？ (本学教員座談会) ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(15) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
平成 29	16	2017.9.1	○データは語る (1) ―授業評価アンケートの分析から知る授業のヒント！― ○学生を学びに導く授業とは？ ―「学生が選ぶベストティーチング賞」受賞者に聞く授業のコツ― ○より質の高い授業とカリキュラムをめざして ―平成28年度「学部FD推進事業」成果報告会開催レポート― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(16) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
	17	2018.2.28	○めざせ、先生！ ―國學院大學の教職支援― ○フィールドに学びあり―ボランティアステーションワークショップ 活動報告― ○東北大学専門教育指導力育成プログラム「大学中国語教授法強化講座2017」参加の記 ○データは語る (2) ―学内TOEIC® IPスコア・データから考える大学生に必要な英語力！― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(17) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―
平成 30	18	2018.9.1	○学士課程教育のさらなる充実をめざして ―平成29年度「FD推進助成事業」成果報告会開催レポート― ○平成29年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」受賞者のことば ○國學院大學LLCにおける英語ファカルティ・デベロップメント (FD) ワークショップを振り返って ○データは語る (3) ―学修相談データベースから見る大学生の英語ニーズと現状― ○シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！―」(18) ○名著探訪 ―高等教育、この1冊―

	19	2019.2.28	○いろいろな学び —ノートテイクの世界— ○教育開発推進機構講演会「旅で身につけたコミュニケーション～考古学からジャーナリストへ～」 ○シリーズ「大学授業最前線—教員の努力！学生のまなざし！—」(19) ○データは語る (4) —教育開発推進機構とFDのこれまでとこれから— ○名著探訪 —高等教育、この1冊—
令和元	20	2019.9.1	○巻頭特集 教育開発推進機構 新機構長・センター長挨拶 ○データは語る (5) —高等教育機関における障がい学生の現在— ○平成30年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」表彰式が開催されました ○シリーズ「大学授業最前線—教員の努力！学生のまなざし！—」(20) ○名著探訪 —高等教育、この1冊—
	21	2020.2.29	○國學院大学の英語教育 ○シリーズ「國學院大学の教育は、今」第1回 ○データは語る (6) 学士課程教育における「書く力」の養成と教育開発推進機構の試み ○いろいろな学び (2) —ノートテイクと考えるコミュニケーションの本質— ○名著探訪 —高等教育、この1冊—
令和2	22	2020.9.1	○シリーズ「國學院大学の教育は、今」第2回 (特別拡大版) ・新型コロナウイルスに伴う遠隔授業導入について (教務部長) ・オンライン授業実践報告 (各学部教員) ・オンラインコーヒーブレイクの試み (実践報告) ○名著探訪 —高等教育、この1冊—
	23	2021.3.1	○オンラインFD講演会報告「COVID-19 パンデミック下の高等教育」 —インドネシア ナショナル大学の事例— ○シリーズ「國學院大学の教育は、今」第3回 ・FD講演会特別企画 オンライン授業インタビュー (各学部教員) ・ハイブリッド授業体験記 ○学修支援センターオンラインセミナー報告 ○オンライン授業体験会・相談会報告 ○令和2年度FD講習会「人工知能の基本的な考え方とPythonでの実行例」開催報告 ○令和元年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」受賞者からの声
令和3	24	2021.9.1	○巻頭特集 教育開発推進機構 新機構長・各センター長挨拶 ○令和2年度 コロナ下における教職センターの取り組み ○学生インタビュー「オンライン授業2年目を迎えて」 ○教員向け「令和3年度に向けた遠隔授業研修会」実施報告
	25	2022.3.1	○シリーズ「國學院大学の教育は、今」(第4回) ・令和3年度 オンラインコーヒーブレイク —コロナ下の授業実践で苦労したこと、考えたこと、見つけたこと— ○履修登録の基本的な考え方について—共通教育プログラムを履修登録するときの参考に— ○あらためて、ノートテイクとは？ —オンライン授業を経験して— ○令和2年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」受賞者からの声 ○教育開発推進機構 オンライン講演会・研修会 開催報告
令和4	26	2022.10.1	○シリーズ「國學院大学の教育は、今」(第5回) 観光まちづくり学部始動！ ○使ってみよう「ルーブリック評価」～令和3年度 第2回 FDワークショップ実践報告より～ ○共通教育プログラムの英語科目の改革とこれから ○「令和4年度に向けた遠隔授業研修会」開催報告 ○SA (スチューデント・アシスタント) 再始動！
	27	2023.3.1	○『教育開発ニュース』休刊の辞・主要目次一覧 ○シリーズ「國學院大学の教育は、今」(最終回) 学部1期生と語る 観光まちづくり学部の学び ○学生サポーターの取り組み —この2年間の活動を通じて— ○令和3年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」受賞者からの声 ○教育開発推進機構 オンライン講演会・研修会開催報告

シリーズ「國學院大學の教育は、今」

学部1期生と語る 観光まちづくり学部の学び



前号に続き観光まちづくり学部の特集です。今回は学部のカリキュラムや授業の特色について取り上げました。そこで今回は、1年間の学びを終えた学生の皆さんにお話をうかがいました。新設の学部に入ってきた1期生の皆さんは、はたしてどんな思いで入学したのでしょうか。そして、2年生への階段を昇ろうとする今、彼らの胸中には一体何が？ 観光まちづくり学部の学生の、学びの一端をご覧ください。

○参加者

會田 一樹、武内 陽菜、富永 空、日戸 達也
(観光まちづくり学部観光まちづくり学科1年)

※50音順

○インタビュアー

鈴木 崇義、小濱 歩 (教育開発推進機構准教授)

※令和5年1月20日、國學院大學たまプラーザキャンパス若木21の多目的ホールで開催 所属・肩書き等は当時のもの

鈴木 観光まちづくり学部は今年度開設ですから、学生は皆さん方1年生だけ、しかも第1期生ですよ。どうして観光まちづくり学部に入ろうと思ったのか、どういうところに興味をもって入ったのか教えてください。

日戸 僕は高校のときから、観光とかまちづくりに興味があって、そういう学部に進学したいと思っていました。探しているうちに國學院の観光まちづくり学部を見つけ、面白そうだな、学びたいと思いました。あと「1期生になる」というところに惹かれたところもあって。新たな歴史を作れるところに魅力を感じたというのがあります。



日戸 達也さん

會田 自分は、フィールドワークのように実際に現地に行って学ぶことに興味がありました。そんなときに観光まちづくり学部の開設を知り、面白そうだと。1期生ということで、自分たちで新しいものを創っていけないのも魅力でした。

武内 私は小さい頃から地図と

かが大好きで。コロナで外出自粛が入る前に、たまたま親戚の結婚式でハワイに行って、それから旅行や観光にすごく興味を持ちました。その直後にコロナ禍に入ってしまったので、その経験がなおさら特別なものを感じられて。この学部なら、自粛が終わったらコロナ後の視点も踏まえながら、観光について学べるのではないかと思いますし、1期生というのも魅力でした。自分と同じように期待を抱いて入ってくる人がいっぱいそうで、楽しそうだと思って入ってきました。

富永 私はもともと外国の文化に興味があって、本など読むうちに、観光という、人やモノの移動ということについて学びたいと思うようになりました。最初は別の大学を志望していたのですが、ちょうど出願の時期にこの学部を見つけて、ちょっと悩んだんですけど、すごく楽しそうだったので、とりあえずやってみようと思って入りました。國學院大學は歴史系の学問に強いイメージがあったので、そういう視点でも観光を学べたらいいなとも思っていました。

小濱 できたばかりの学部で、よくわからない面もあったかもしれないけれども、逆に楽しそうだと、学んでみたいと飛び込んで来たというのが印象的でした。1年間学んでみて、学部やキャンパスにどんな印象をもちましたか。

日戸 観光とかまちづくり、地域振興とか、興味があって進学してきた、まさにその分野の専門の先生方がたくさんいらっしゃるって、自分の関心にとっても合っています。学びたいことが学べているという感じです。

會田 自分もそうです。たとえば、基礎ゼミで、草津に実際にフィールドワークに行くことができました。町長さんのお話を聞いて、すごく関心を高めることができたので、よかったなと。

武内 私は観光や旅行に興味はあったのですが、好きな気持ちだけで、「学問」という形では考えたことがなかったので、好きなことをもっと突き詰められるのは楽しいです。周りの人たちも、基礎ゼミとかで一緒に活動すると、発表の場で色々な人の意見を聴けて、「この人ってこういう考え方をするんだ」「こういう視点でみる人もいるんだ」というように、この1年間でとても視野が広がったと思っています。

富永 私は、最初に思っていたのとは少し違う所もありました。観光の学部となると、けっこう政策に関わることといえますか、自治体とか公的な事柄とか、そっち系が多いのかなと思っていて。自分は少し関心の方向が違ったので、どうかかなと思っていたのですが、授業を受けてみると、企業とかNPO法人とか、そういう話もしてくださったりして意外と面白くて。自分が思っていたのとはまったく違う視点で観光を学べたのは、すごくよかったと思いました。

鈴木 興味・関心にぴたりだったという人もいれば、違ったけれどもその違いが面白かったという人もいるのが面白いですね。それでは、実際の授業の中身について、もう少し具体的に「こんな授業で、こういうことが面白かった」というようなことがあれば、教えていただけますか。

日戸 一番、この学部に入って良かったと感じたのは基礎ゼミです。少人数で、学部の人とグループになって、フィールドワークも経験して。座学だけでは学べない、足を運んでみて気づくことがすごく多かったのです。フィールドワークが1年生からある学部って珍しいんじゃないでしょうか。それがこの学部の特色というか、いい所だと思います。

會田 僕も基礎ゼミです。他の大学だと、ゼミは3年生からという印象が強かったので、1年生からこういう経験ができたのはよかったと思います。それから「プログラミングと数学基礎」(仲野潤一担当)ですね。プログラミングは、高校でやる「情報」の延長みたいな感覚で入ったら結構難しくて(笑)。課題も結構難しいのですけれども、周りの人と相談してもよいというのと、先生が熱心

に指導してくださって、メールでもていねいに質問に答えてくださったおかげで、何とか形にできました。

武内 私は基礎ゼミで2つの場所にフィールドワークに行きました。ひとつは南雲先生のゼミで、東京駅の行幸通りの照明などをデザインされた先生なのですが、夏休みに行幸通りに実際にみんなで行って、デザインなど見せていただいて。自分も普通に行ったことのある場所をデザインされた先生が学部にいるなんて思ってもいなくて。「ええっ、これ、そうだったんですね!」という感じで。東京駅の駅舎があって、ここが行幸通りで、ここが皇居、という所で、人がたくさんいてビルがいっぱい並んでいるのですが、振り返ってみると、皇居の方は本当に、樹があって、都会の雑多な感じがまったく見えない景色になっていて、その空間作りに私は本当に感銘を受けて。こんな都会の真ん中に、こんな静かな場所があるんだっていう。東京駅の駅舎が映えるように、点字ブロックとか、地下道への入り口も、色などグレーとかあまり目立たないようにされていて。そういうのを実際に見ながら、「こういう理由で作られた」という説明を受けたのがすごく勉強になりました。それから、秋頃には、堀木先生の授業で鎌倉に行ったのですけれども、そのときは、鎌倉の町を見て、自分で気がついたことを地図に落として表現するという内容でした。こういう施設があるということやいろいろな地図に書き込んだのですが、人によっては、路地と、混んでいる通りとの造り方の違いとか、建物の違いとか。食べ物屋さんの数、こういう種類の食べ物屋さんが多いとか。一人一人の視点が、みんな違うので、それを見たときに「ああ、本当に、自分ひとりで勉強していたのでは気づかなかったな」という学びが多くて、楽しかったです。

小濱 楽しかったことが伝わってきました(笑)。

武内 ありがとうございます(笑)。

鈴木 フィールドワークはゼミ単位で行くのですか。それとも、希望者がそれぞれ行きたい所に行く感じなのでしょうか。

武内 6月くらいに、先生方が全員プレゼンをされて、それで自分の行きたい場所を選ぶことになっています。抽選があるので、なるべく希望が通るようにという感じで、1クラス15名ほどの規模になります。

富永 私は基礎ゼミと、「コミュニケーション論」(河尻珍担当)、「文化社会学」(潘夢斐担当)の3つが楽しかったです。ただ、基礎ゼミは行きたい所に行けなかったというか、コロナで中止になってしまっ。『コミュニケーション論』は、地域のコミュニケーションがどういふ



會田 一樹さん



梅川智也ゼミ フィールドワーク・草津(會田)



武内 陽菜さん

うに行われているとか、その地域で行われているコミュニケーションをどのように観光まちづくりに応用していくか、というような感じの授業でした。私自身は広告とかPRに興味があったので、すごく面白い授業でした。もうひとつは「文化社会学」で、潘先生の授業なんですけれども、いろんな文化がたく

くさんあって、その文化を社会学の視点から見ていく、というような授業です。私はすごく本が好きで、文学が好きだったので、文学都市というテーマで調べて発表しました。発表の場がとても多い授業だったなと思います。この学部自体、全体的に発表が多いなという印象です。それが自分にあっていて、楽しかったです。

小濱 文学都市とは、面白そうですね。

富永 そうなんです。前田愛という方の研究を参考に、記号論とか使って、グループで発表して。私は実例として『君の名は』という映画を取り上げて、その中で描かれる町が、文学都市として成り立っているんじゃないかというような考察を発表させていただいて。本当に面白かったです。

鈴木 バラエティ豊かですね。フィールドワークやアウトプットが多いのが特色で、皆さんがそれを楽しんでいる様子がとてもいいなと思いました。これから2年生、3年生になって、さらに勉強が進んでいくと思うのですが、「今後、こういうことをやってみたい」とか、「こういう方向に進んでいきたい」というようなことがあれば教えてください。

日戸 観光業・観光産業について勉強してきたので、実際に企業さんとかに足を運んでみたいです。フィールドワークを通じて、足を運ぶことの大切さ、座学との違いも知ったので。企業がビジネスを展開している観光の現場に足を運んで、実地に学んでみたいなと思います。

會田 インターンに興味があります。温泉地やスキー場などで、実際に接客などにも携わりながら、ああ、こんなに大変なんだとか、どんな問題点があるのかとか、そういうことも学んでみたいです。

鈴木 なるほど。インターンと聞いて頭に浮かんだんですが、東日本大震災のとき、本学からも他大学と一緒に被災地の支援に行ったのですね。ボランティアを受け入れる宿泊施設があって、そこに1ヶ月くらいインターンに行った学生さんたちがいたなあ、と。そこに就職しちゃった人も何人か出ました。インターンで現地に学んで、さらに関心や学びが深まっていく感じですね。観光で訪れると楽しいけれど、現場の人の忙しさや苦労も見えてくるでしょうね。

武内 私は6月頃、導入ゼミという最初に割り当てられる

少人数ゼミで、今後学んでみたいことを調べるというプレゼンがあったんですね。鉄道がすごく好きだったこともあって、鉄道の沿線開発とかに興味があります。鉄道会社のホームページなどで「○○線と、どこどこのまちづくり」とか、そんな言葉を目にすることが多かったので、まちづくりに興味を持ったのも、そこからだったかも知れません。

とても発展していて、駅に隣接する商業施設もある路線がある一方で、電車自体はとても便利なのに駅はすごくさみしかったりすることもあります。便利なのに駅に降りても住宅しかなかったり、お店がなかったり、どうしてだろう。そういうことをもっと考えてみたいなど。

富永 私は広告とかPRに興味があります。どの地域にも魅力があるものだと思うのですが、それが発信のしかたによって輝いたり、逆に埋もれてしまったり。すごく小さなものでも、発信の工夫でひときわ輝いて見えたりします。そういう魅力を見つけられるようにになりたいですし、そうした発信の方法や工夫を学んでいきたいと思っています。

鈴木 企業でビジネスモデルを考えたり、インターンで現場に学んだり、日常生活の場でもある駅や沿線について考えたり。そして、それらの魅力をどう発信するか。強引に結びましたが（一同笑）。それぞれ視点が違って面白いですね。

小濱 ここまで学問のお話でしたが、大学生活の面はどうでしょうか。大学生になって、これまでと違う部分とか、こういう所は楽しいなとか、でもこういう所は苦労するとか。

日戸 大学に来て一番思ったのは、良くも悪くも自由だということです。中学・高校に比べると、縛りが無いというか。自由に、自分のやりたいように学べる、履修登録



南雲勝志ゼミ フィールドワーク・東京駅と行幸通り（武内）

ができると。そういうところが、大学に入って感じた魅力ですね。

會田 高校までと違い、大学に入ると、自分で予定を組んで動くことが増えました。自分にはこのほうがあっているかなと感じます。コロナ禍がきっかけで、世の中も全体的にテレワークなど、働き方の見直しが進んでいます。社会人になってからも、自分の働き方を自分で決めて行くような生き方に魅力を感じます。

武内 高校までオンライン授業がすごく多かったのが、大学に入って少なくなりました。対面授業ってありがたいなと思います。実際に先生の話聴くことができたり、私と同じように観光まちづくりに興味がある人が集まっています。気の合う人たちにいっぱい出会えたりもしたので、本当に楽しくて。こんなに学校が楽しいって思ったことがあまりなかったので、周りからも、「すごいね、大学楽しそうだね」って言われるんですけども(笑)。大学のように、同じようなことに興味を持つ人々が集まっている場だと、色んなことが学べる・体験できるんじゃないかと思います。ただ遊ぶだけではなくて。「こういうところに行ってみよう!」となったり。出会いがキーワードというか(笑)。

小濱 こんなに大学が楽しいとは! というのは素敵ですね。

鈴木 ここは、少し太めの文字で印刷しましょうか(一同笑)。

富永 今のお話のあとに話すのは、ちょっぴりプレッシャーですね(一同笑)。私もこの春から一人暮らしで、全てが新しく、とにかく情報が足りないと思いました。何もわからないし、誰に訊けばいいのかもわからない。先生方も、新しい学部だから初めての部分もあり、戸惑っていたこともあるみたいで。後期になってようやく落ち着いてきたと感じます。履修登録とかも、自由に決められ



堀木美告ゼミ フィールドワーク・鎌倉(武内)

るのはいいけれど、どういう授業なのかよくわからなくて。もちろん説明会みたいなものを先生方が開いてくださるのですが、それを聞いても、やっぱりちょっとわかりにくくて。

鈴木 どういう授業があって、どういうふうにとっていかばいいのかというようなモデルがまだないんですね。1期生だと先輩に相談するということもできないですね。

小濱 そうですね。これから後輩とか入ってきて、皆さんも先輩になるわけで、先輩・後輩のつながりというのは、むしろこれからできてくるわけですが、そのことについてはどんな思いがありますか。後輩とこういう話ができれば楽しいとか、先輩としてこういうふうになりたいとか。あまり意識したことがなかったかも知れないけれど。

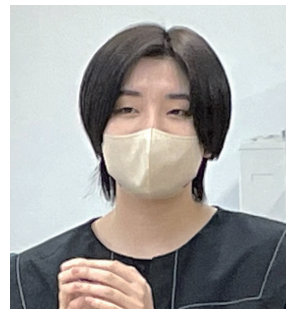
武内 私、この場所(多目的ホール)が結構好きなんです。いつも使っていて、なんだか〈俺たちの場所〉感があるけれど、「後輩が来たら、こども混じゃうんだなあ」って(一同笑)。最初に案内してもらったときに、いろいろ説明を受けました。木材とかにも、すごくこだわって作られているので。綺麗に使ってくれると嬉しいなあって(一同笑)。

小濱 今はとても空いていますね。これから人も増えてにぎやかになっていくのでしょうか、こういう広々とした貸し切りのような感覚は、1期生の特典かもしれませんね(笑)。

富永 私は、先ほど話したように、情報が少なくてわからないことばかりだった、ということがあるので、次に入ってくる1年生も、きっとすごく迷うと思うんです。モデルケースも1年しかないわけですから。だから何かあったら、とりあえずそのへんの先輩に声をかけて、訊いてみてくれれば、と思います。私も、違う学年の人と話してみたいなって思いますし。ですから、これからこの学部は、コミュニケーションの力がすごく試されるんだろうなと(一同笑)。私自身、そういうコミュニケーションというか、雑談とかあまり得意ではないんですが、そういうのも大事なんだろうなって思いました。いろいろなことを尋ねたり、話したりできる雰囲気をつくっていききたいなと。

小濱 それはとても大事ですね。コロナ禍のとき、当時大学1年生として入ってきた人たちは、そもそもキャンパスに来られなかったもので、友人も、先輩・後輩のつながりもなかなかできなかったということがありました。寂しい思いもするし、いろいろ相談することもできないし、本当に戸惑いは大きかったと思います。学生同士のつながりはとても重要だということを、我々も再認識させられたことでした。

鈴木 そうですね。学内のコミュニティがかなりダメージを



富永 空さん

受けた面もあります。サークル活動も停滞せざるを得なくなったり、1年生が入らず存続の危機を迎えてしまったり。

富永 サークルといえば、私、観光まちづくり学部特有のサークルがあるといいなと思っていて。もちろん旅行部とか、そういうのはあるみたいですが、この学部らしさというか、観光学とかフィールドワークに絡んだ活動ができるようなものができたらいいなと思っているんですけれども。あと、渋谷キャンパスにはサークルの本部のような場所があるんですけれども、ちょっと心理的に敷居が高くて、なかなか行けなかったんです（笑）。こちらにサークルができれば、勧誘とかもできますし。たまプラーザキャンパスってフレンドリーなイメージがあるので、できるのではないかと。

鈴木 渋谷から参加する人も、出てくるかもしれないね。

富永 そうだったら嬉しいです。いろいろ、お話も聞けると思うし。他学部との交流ということがあまりないので。

小濱 サークルは、大学の文化を形作っていく面もありますから、学部の特色を反映したサークルができれば、それがまた、このキャンパスなりの文化を生み出していくのでしょうか。他の方はどうですか。

日戸 正直なところ、学食が混むのがちょっといやかなと（一同笑）。あまり大きくないと思うので。でも、この校舎（若木21）が交流の場として使えたらいいな、とも思います。このホールのような空間もあるし、それはそれで、たくさん人が来れば盛り上がりって楽しくなるのかなとも思います。学部として盛り上げていけるといいなと。

小濱 若木21の校舎は、こういう、ラーニングコモンズ的なスペースが多数設けられていますから、活かしていけるといいですね。

會田 4月はじめに、2・3回履修登録会みたいなのがあって、怖そうな先生が10人くらい並んでいましたけれども（一同笑）。そこでパソコンを並べて、どういうふうに履修していけばいいのかという話をするんですが、そういうところで、学生同士でも集まって、互いに情報交換や相談などしながら交流ができてくるといいなと思います。

小濱 学生同士、先輩・後輩や友達が、互いに助け合ったりできるようつながりができると、とてもいいですね。



金今善ゼミ フィールドワーク・新大久保（日戸）

鈴木 そろそろ時間が来ましたので最後の質問ということで。まだ1年生が終わるところで、漠然としているとは思いますが、将来的なことについてですね。卒業後の進路とか、どういうことをやってみたいとか、考えていることがあれば、お聞かせいただければと思います。いかがでしょう。

日戸 僕は長野県出身で、もともとこの学部で学びたいと考えた理由のひとつが、地元を活性化させたいという思いがあったからです。僕の地元の周りは田舎で、中には「限界集落」と呼ばれるような場所も多くあるんです。そういう所に住んでいる人々がどういう人たちか、僕は知っているのですが、その人たちの生活の場がそういう否定的な捉え方をされて、活気が失われていくというのは、とてもつらいですから、地域おこし・地域振興のことを学んで、将来的には地元に戻って発展させていきたいなと。

會田 僕は先ほどお話ししたような、インターンを通して学んでいきたいということが、まずひとつ。それから、宅地建物取引士の免許を取得したいので、今年の10月にとれるように勉強して、将来の就職を目指していきたいです。

武内 私はまだ、明確に進路が定まっているわけではないんですけれども、さきほど話したように、鉄道の沿線開発に興味があります。いろいろな駅を見ていると、「ああ、古かった駅が綺麗になったな」という例もよく見かけるのですけれども、昔からあったものを全部なくしてしまうような開発ではなくて、そういうものを残しながら、より暮らしやすいまちづくりがしたいな、という思いがあるので、そういうことを学んでいきたいと思っています。

富永 私も先ほど少し話しましたが、PR・広報とかに興味があります。人に、自分の好きなもの・誰かの好きなものを伝えていきたいなと思っていて。観光というのは、地域の宝を見に行く・体験しに行くことだと私は思っています。広告とかPRでそうしたことを少しでも手助けして、地域のファンをたくさんつくっていききたいなと思っています。

鈴木 どうもありがとう。それでは、インタビューはこれで終わりたいと思います。今日はお時間を取っていただいて、どうもありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

鈴木 最後に何か、話したりなかったことはありますか。

武内 後輩に向けて「一緒に旅しよう!」と言いたいです。こんな先輩もいます! ということで（一同笑）。

鈴木 ありがとうございます!!

小濱 後輩への力強い呼びかけをもって、締めくくりとしましょう（一同笑）。

— おわり —

今回のインタビュー実施にあたっては、観光まちづくり学部観光まちづくり学科の潘夢斐先生にコーディネートいただきました。この場を借りて御礼申し上げます（機構教員）

学生サポーターの取り組み

—この2年間の活動を通じて—

学修支援センター副センター長 鈴木 崇義

様々なタイミングにより、2年前に活動を再開した学生による障がい学生支援。それまでのノートテイクとしての活動をあらため、幅広く支援が行える「学生サポーター制度」として新たに運用することになりました。新たになったのは制度だけではありません。新たな授業形態、オンライン授業が行われるようになり、従来型のノートテイクではない情報保障支援のあり方も試行錯誤を重ねました。本記事では、その2年間の活動を振り返り、所感を述べます。

学生サポーター制度

学生サポーターは、本学における障がい学生支援の一端をになう、学生スタッフです。毎年登録者を募集し、研修を行ってから実際の支援に当たってもらっています。支援活動内容は大きく、

- ・パソコンノートテイク
- ・文字起こし
- ・ノートテイク（主に授業における代筆）
- ・学内移動補助
- ・教材のテキストデータ化
- ・その他の授業補助
- ・障がい学生支援に関わる企画補助

を用意し、運用等について定め、学生サポーター制度として令和3年度よりスタートしました。これまでは、慣例としてノートテイク支援だけの活動となっていたのですが、明確に制度化することにより、幅広く支援が行える形にしたのです。ただ、結果的にこの2年間（令和3年度～4年度）は聴覚障がい学生へのノートテイク支援が中心となっていました。とはいえ、今後必要に応じてさらに活動の幅を広げられればと考えています。

オンライン授業の情報保障支援の模索

令和3年度より、原則としてオンライン授業は動画配信によるオンデマンド授業を中心とすることになりました。支援開始にあたっては、このオンデマンド授業の支援方法について議論をしました。ノートテイクをするのか、あるいは動画に字幕をつけるのか等、実現可能な形を急いで探し、考え、まずは動画の文字起こしによる支援を行うこととしました。

また、対面授業が復活したとはいえ、オンライン授業も多い状況であったため、学生サポーターのテレワーク

を認めました。これにより、本学の学生でもある学生サポーターにとって活動しやすい形の支援体制をとることができました。さらに後期には、利用者との相談の上、スムーズに受講するために動画を同時に視聴してノートテイクする方法に改めました（※令和3年度の試行錯誤については、『教育開発ニュース』25号に紹介しています）。

よりよいオンデマンド授業の支援を求めて

令和4年度になり、支援活動の型は固まったのですが、後期の途中になって利用者からオンデマンド授業のノートテイク時に同席せず、ノートテイクしたログを提供してもらう形に変更できないか、と申し出がありました。支援に利用している筑波技術大学の提供によるオンラインノートテイクツール「captiOnline」は、打ち込んだ文字のテキストデータをダウンロードできますので、可能ではあります。

オンデマンド授業のあり方が、定められた期間内にいつでも視聴できるという性質を有する以上、この申し出は当然のこととして、実現させたいと考えました。そこで現在は、利用者不在でノートテイクを行い、そのログのテキストデータを共有するという方法を主として行っています。

ただ、学期の途中での変更であったため、連絡の行き違い等の問題も発生しました。柔軟に対応することの難しさと、コミュニケーションを密にとることの大切さを実感することでもありました。

学生サポーターからの活動の提案

学生サポーター制度は、令和3年度の活動再開当初から、できるだけ学生主体の活動となるように運用を進めてきました。そのため、前期後期末にそれぞれ行う報告会は、学生主体となって、内容や進行を行ってもらっています。ところが、今年度後期になって、学生サポーターからも、

ノートテイク支援についての紹介動画を作成し、授業担当の先生方に見ていただきたい、と提案がありました。ノートテイク支援は、支援者のスキルも重要ですが、授業での教員の配慮の有無で支援のしやすさが大きく左右します。配慮といっても特別なことではなく、大きな声ではっきり話す、指示を明確にする、といった授業の基本がなされているだけで、ずっと支援がしやすくなるのです。また、先生方からもノートテイク支援の考え方や、どのように実際に行われているのかを知りたいという声をいただいていた。以上のようなことから、動画作成チームを編成して、約5分の動画にまとめてくれました。



※動画の撮影風景（模擬授業でノートテイク風景を撮影）

他にも、每期入ってくる新規メンバーに向けた、captiOnlineの使い方や、勤務に関する事項を説明する動画なども作ってくれました。こういった活動が学生から提案されたのは、学生同士の活動であることが考えるきっかけとなり、授業担当の先生方の温かいご協力がそれを促したのだらうと思います。

コミュニケーションの大切さ（課題にかえて）

さて、学生同士による支援が形成されていった中で、やはりどうしても生じる課題がいくつか出てきました。例えば、ノートテイク動画の取り違いやファイルのアップし間違いなどです。これは、そもそも授業形態が複雑なため、支援に関わるメンバー、利用者、支援者、制度を運用する教職員のコミュニケーションが不十分だった時に発生するようです。

現状としては、連絡や報告は基本的にメール等のオンラインツールを中心とするため、どうしても意思疎通がうまくいかないということがあります。テキストだけでは、なかなか自分の意図が相手に伝わりません。人と人とのコミュニケーションは言語に留まらず、身振りや顔の表情等さまざまな情報源により行われるそうです。テキストで気軽に連絡が取れるメールやチャットはとても便利ですが、細かなニュアンスや複雑な事項を伝えるのはとても難しいと感じました。

関わる人が多くなればなるほど、共通の認識を持つことは難しくなります。一方、メンバーに対し常に情報を発信することの負担感もあるでしょう。制度・運営面からは、できるだけスムーズに連絡が取れる体制を検討する必要があるようです。あるいは、連絡を取り合うこと自体の負担感を軽減するアイデアがあれば良いのですが、簡単には見つかりません。

ですが、あきらめずに模索し続けることで、その時その時の最善の方法が見つかるでしょうし、また、模索し続ける力が、学生サポーターや利用者にはあると信じています。

	利用者との調整・確認	学生サポーターの活動
3月	利用者との面談	次年度に向けての準備
4月	履修登録と支援する授業についての相談	支援開始
5月		2年生以上を対象に新規メンバー募集
6月		新規メンバーむけ研修会
7月	試験科目等、個別支援の必要な科目の確認	前期授業終了後に報告会
8月		
9月	履修登録と支援する授業についての相談	支援開始
10月		1年生を対象に新規メンバー募集
11月		新規メンバーむけ研修会
12月		
1月	試験科目等、個別支援の必要な科目の確認	後期授業終了後に報告会
2月		
3月	利用者との面談	次年度に向けての準備

利用者との調整および学生サポーターによる支援の年間活動

令和3年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」 受賞者からの声

◆ はじめに ◆

國學院大學では、例年「学生による授業評価アンケート」の結果に基づき「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」を実施しています。

本年度は、令和3年度のアンケートにおいて、①到達目標達成度「あなたは、この授業の到達目標を達成できたと思いますか。」と②総合満足度「あなたは、この授業を履修して良かったと思いますか。」を総合した指標で上位を記録した9名の先生方（文学部2名・他学部各1名・兼任教員3名）に授与がなされました。

前年度に続き、感染症対策の観点から、一堂に会しての表彰式は残念ながら見送りとなりましたが、先生方よりコメントをお寄せいただきましたので、本誌上にてご紹介いたします。 ※所属・職位は令和3年当時のものです

野中 哲照 先生（文学部教授）

〔日本文学概説Ⅰ・Ⅱ、日本文学講読Ⅰ・Ⅱ ほか〕

これまで、このような賞を受けられる先生のイメージは、教員から学生への一方通行ではなく、学生さんの意見・感想を吸い上げ、それをフィードバックして活気ある授業をされるというものでした。それに対して私の授業は一方通行で、むしろ不器用な授業の部類であろうと思います。

「学生の満足度とは何か」を考えさせられます。教育方法の工夫ではなく、内容なのだ、と。学界の通説を語るのではなく（それは役に立たない）、「卒業後の学生さんに必要な物の見方・考え方」の観点から、内容的な充実を継続しなければ、と思っております。

野村 ひかり 先生（文学部准教授）

〔書道Ⅰ・Ⅱ、書道実習、表現文化演習Ⅱ ほか〕

平成27年度、令和元年度に続きこのような身に余る素晴らしい賞をいただきまして、とてもうれしく思ってお

ります。本当にありがとうございます。令和3年度は、「表現文化演習Ⅱ」を初めて担当させていただきました。学生の皆さんが自ら選択した題材で作品制作を行うという内容です。教員指定の課題をこなすのではないという点が新鮮であったようです。一年次以来会うこともなかった方が、卒業記念に作品を制作したいと受講してくれたことも大きな喜びでした。末永く書道と向き合う若者が増えることを願い、より一層身をひきしめ、授業に臨みたいと思います。

藤嶋 亮 先生（法学部教授）

〔比較政治A・B、政治変動論 ほか〕

コロナ禍が長期化し、受講した皆さんは本当に大変であったと思います。その中で、学修時間の増加や多くの力作レポートに手ごたえを感じましたし、今回の受賞には心より励まされました。授業では、毎回できるだけシンプルな疑問文で重要テーマを提示し、それに対する複数の説明や解釈を検討した上で、いかにしてより適切な説明や解釈にたどり着くのかという発想・プロセスを重視しました。また政治学の授業では、一つの答えがない問題（open question）を取り上げることも多く、学んだ知識を踏まえ、皆さんはどう考えますかという基本姿勢で臨んでいます。以上のような発展的理解に結びつくように、遠隔授業での課題内容やフィードバックを工夫しました。

星野 広和 先生（経済学部教授）

〔経営管理、経営学史、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ほか〕

この度は、令和3年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」を受賞でき、大変光栄に存じます。普段の教育実践努力が目に見える形で成果に結びついたことは、大学教員として冥利に尽きます。授業実践では、コロナ禍の学生の学習環境を強くイメージして工夫しました。オンデマンド型授業では、学生自身のペースで学習できるため、より詳細かつ具体的な説明を増やし、対面型授業では、孤立的で寡黙になりがちな日常生活を踏まえ、協働的で参加的な学習機会を増やしました。今後も学生の授

業満足度向上につながる努力を継続する所存です。

笹生 衛 先生（神道文化学部教授）

〔神道史学演習Ⅰ・Ⅱ、宗教考古学Ⅰ・Ⅱ ほか〕

ベストティーチング賞をいただいたこと、大変にうれしく思います。今年度は、まだ、コロナ禍の影響は残りながらも、久しぶりの対面授業となったので、私としては、大変に楽しく授業を行うことができました。講義・演習などでの工夫は何かしているかと聞かれても、私は特別な工夫はしておりません。ただ楽しく講義・演習をできるように努めています。今、何が問題で、それが、どこまで明らかになってきた、というような研究のプロセスにもふれるよう心掛けています。

町田 樹 先生（人間開発学部教授）

〔身体論、運動方法基礎実習表現系Ⅳ（ダンス） ほか〕

この度は、ベスト・ティーチング賞を授与していただき、洵にありがとうございます。私にとって令和3年度は、本学に着任した最初の年度でしたので、新任教員としてとにかく必死に授業を行っておりました。しかも、コロナ禍で担当している授業のほとんどが遠隔形式での実施。学生のリアクションを直接知ることができませんでしたので、「本当に伝わっているのだろうか？」と、時には不安になることもありました。しかし、どのような状況であれ、学生の皆さんにとって本学での4年間は、最初で最後のキャンパスライフです。一生に一度の大学生活の中で、学生の皆さんには学問の醍醐味を最大限体感し、そして豊かな人間関係を築いていていただきたいと思っています。私の授業を通して、その想いが少しでも学生の皆さんに伝わっていたら大変嬉しく思います。この賞を励みに、引き続きより良い授業や学びの空間を形成できるよう研鑽を積んでいく所存です。

佐藤 佑介 先生（兼任講師）

〔運動方法基礎実習表現系Ⅰ（体操）、指導法実習表現系Ⅰ（1）（体操）〕

「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」を受賞し、身に余る光栄です。私は運動方法基礎実習表現系Ⅰ（体操）等を担当させていただきました。いつでも（いまでも）試行錯誤しながらの授業展開ですので、何が受賞理由となっ

たのかはわかりません。しかし、この授業を展開するうえで大切にしていた「専門的知識や技術を習得しつつ、スポーツの本質である「楽しさ」を学修して欲しい」という思いが、そのきっかけになったように思います。「できる」「できない」がはっきりする器械運動において、「誰もが楽しい」を探求する日々が続いています。

長浜 尚史 先生（兼任講師）

〔スポーツ実技、スポーツ身体文化ⅠA・ⅠB〕

今回の受賞、大変嬉しく思っています。一昨年度は課題提出型の授業をしていましたが、ほぼ対面形式となった昨年度は、学科・学年の異なる学生たちがグループワークに取り組みため、到達目標を達成しやすかったのでしょう。実技科目は他者とコミュニケーションを取るために、どうしても会話がふえます。そのため、コロナ禍ではマスク着用が欠かせないのですが、その一方で息苦しさを抑えるために、アクティブティの強度にも配慮しなければなりません。いつもにも増して難しかった授業運営でしたが、多くの学生は友人の輪を広げることができたなど、満足していたようで安心しました。今後も良い授業になるように工夫していきます。

川渕 竜也 先生（兼任講師）

〔メンタルヘルス〕

この度は身に余る賞をいただき、驚きとともに大変嬉しく思っております。令和3年度の当科目はオンデマンド講義となりました。講義の双方向性を確保するため、K-SMAPYを活用した小テストや質問受付、動画視聴しながら書き込むスタイルの教材などを導入しました。また動画内に質問回答や小テストの解説の時間を設けました。オンデマンド化によって他学部、他キャンパスの受講者が増え、質疑の視点が広がり、これまでにない講義の活性化があったと感じています。また私にとりましても講義展開や教材を見直す大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。

教育開発推進機構彙報

(令和4年1月1日～令和5年1月31日)

※肩書き等は当時のもの

行事

【令和4年】

1月12日：3年生第6回教員就職ガイダンス
2月6日～3月8日：教職春期集中講習会
2月7日：令和4年度教育実習予定者書類作成会
2月9日：[ハイブリッド] 後期学生サポーター報告会
2月16日：PCAPパブリックサービスキャリア・コース「一般知識・一般知識」試験
2月24日：[自宅受検] 学内教員採用2月模擬試験
2月25日：TOEIC®学内テスト
3月11日：TOEIC®学内テスト
3月17日：[オンライン] 筑波技術大学パソコンノートテイクオンライン合同研修会（学生サポーターが参加）
3月22日～26日：後期修学指導面談
3月31日：新4年生第7回教員就職ガイダンス
3月31日：学士・編入生教職履修ガイダンス
4月3日～7日：1年生教職履修ガイダンス
4月4日：PCAPグローバルキャリア・コース履修ガイダンス
4月5日：1・2年生前期教員就職ガイダンス
4月5日～27日：首都圏7自治体教育委員会教員採用試験学内説明会（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県市・茨城県・横浜市・川崎市）
4月6日：3年生教育実習学校交渉ガイダンス
4月6日：3年生第1回教員就職ガイダンス
4月8日：R4介護等体験2年目①ガイダンス（誓約・申込書）
4月8日～5月1日：教員採用試験対策直前講習会
4月13日：スクールボランティア説明会
4月20日：私学教員適性検査・私立学校ガイダンス
4月20日～6月10日：前期教育小論文講習会
4月27日：2年生教育実習学校交渉ガイダンス
4月27日：前期教員求人登録会
5月7日：R4介護等体験2年目②ガイダンス（外部講師講演）
5月7日：前期SA研修会（渋谷・たまプラーザ両キャンパス開催）
5月11・13日：教員採用試験候補者選考試験支援奨学金説明会
5月11日～6月15日：教員就職支援 教職総合ゼミナール
5月14日：TOEIC®学内テスト
5月27・28日：新潟コメ作りワークショップ（田植え）
6月1日：R4介護等体験2年目③ガイダンス（体験諸注意）
6月1日～7月15日：教員採用試験対策一次対策会
6月8日：R5介護等体験1年目①ガイダンス（説明・課題図書）
6月11日：TOEIC®学内テスト
6月22日：[オンライン] オンラインパソコンノートテイク研修会（講師：筑波技術大学 宇都野康子氏）
6月23日：[オンライン] 3年生第2回教員就職ガイダンス
6月25日：TOEFL ITP学内テスト
6月29日：教育実習東京都立学校希望者・大学一任対象実習校申請
7月2・3日：新潟コメ作りワークショップ（草取り）
7月4日～6日：R4介護等体験（施設資料配布）
7月6日：第3回教員就職ガイダンス
7月6・9日：教員免許状一括申請登録会（一次）
7月9日：TOEIC®学内テスト
7月17日～8月12日：教員採用試験二次対策指導会
7月20日：R4介護等体験9・10月直前ガイダンス
7月20日：渋谷キャンパス学生対象特別支援学校教諭免許説明会
8月1日：[ハイブリッド] 前期学生サポーター報告会
8月2日：[ハイブリッド] 前期SA報告会
8月23日～9月22日：教員採用試験対策夏期集中講習会
9月12日～28日：前期修学指導面談
9月21・22日：新潟コメ作りワークショップ（稲刈り）
9月28日：1・2年生後期教員就職ガイダンス
9月28日：R4介護等体験11・12月用直前ガイダンス（R4体験12

月終了）

10月3日～12月13日：教職基礎ゼミナール
10月5・19日：教員求人登録説明会
10月5日～12月2日：教員就職支援 教職総合ゼミナール
10月7日～12月26日：後期教育小論文講習会
10月8日～12月10日：教員就職支援 専門教科ゼミナール
10月15日：PCAPパブリックサービスキャリア・コース向け「公務員のしごと」無料オンラインセミナー
10月19日：R5介護等体験用1年目②ガイダンス（教科書指示・教材視聴等）
10月21日：秋季特別教員就職ガイダンス
10月29日：TOEIC®学内テスト
11月9・12日：教員免許状一括申請登録会（二次）
11月16日：教員採用試験合格者報告・相談会
11月16日～1月11日：首都圏8自治体教育委員会教員採用試験学内説明会（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県市・茨城県・横浜市・さいたま市・川崎市）
11月19日：TOEFL ITP学内テスト
11月26日：新潟コメ作りワークショップ（奉納）
11月30日：PCAPグローバルキャリア・コース説明会
11月30日・12月7日：[オンライン] オンラインパソコンノートテイク研修会（講師：筑波技術大学 宇都野康子氏）
12月7日：[オンライン] R4介護等体験代替措置ガイダンス
12月7日：教育実習東京都立学校希望者・大学一任対象
12月10日：TOEIC®学内テスト
12月17日：教員就職支援 志望県別学習相談会
12月18日～24日：教職教養冬期集中講習会
【令和5年】
1月31日：[ハイブリッド] 後期学生サポーター報告会

FD活動・教育支援

【令和4年】

2月17日：[オンライン] 國學院大学北海道短期大学部FD研修会（講師：加納なおみ・小濱歩・佐川蘭子）
3月7日：[オンライン] 令和3年度FD推進助成（甲）事業成果報告会
3月23日：[オンライン] 令和4年度に向けた遠隔授業支援研修会
4月1日：令和4年度第1回新任教員研修会
7月21日～9月2日：[オンデマンド] 令和4年度第1回FD研修会（新任教員対象）「國學院大学校史」
12月21日：[オンライン] 令和4年度FD講演会「ユニバーサルデザインの視点をいかした高等教育における学びの支援」（講師：星槎大学大学院 教育実践研究科 阿部利彦氏）
12月22日～2月6日：[オンデマンド] 令和4年度第2回FD研修会（新任教員対象）「シラバス・成績評価」

【令和5年】

2月13日：[オンライン] 令和4年度データサイエンスFD研修会（講師：立正大学 データサイエンス学部 渡辺美智子氏）
3月：令和4年度FD推進助成（甲）事業成果報告会（予定）
3月：令和5年度に向けた遠隔授業研修会（予定）

情報収集・外部研修・セミナー参加等

【令和4年】

5月28日：全国私立大学教職課程協会定期総会・研究大会参加（坂入・関口）
6月26日：[オンライン] 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会参加（大島）
10月15日～3月31日：[オンデマンド] JASSO令和3年度「障害学生支援専門テーマ別セミナー【コロナ禍の学びの変化】」視聴（佐川）
10月22日：[オンライン] 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会参加（大島）
11月15日～3月31日：[オンデマンド] JASSO令和3年度「障害

学生支援理解・啓発セミナー」視聴（佐川）
1月28日：[オンライン] JPFF幹事校・会員校ミーティング・懇談会参加（新井・小濱・原田）
2月19・20日～26・27日：[オンライン] 大学コンソーシアム京都第27回FDフォーラム参加（新井・小濱）
4月26日：[オンライン] JPFF幹事会・総会参加（新井）
6月4・5日：[オンライン] 大学教育学会第44回大会参加（小濱）
6月18日：[オンライン] JPFF幹事会・総会・シンポジウム参加（新井・小濱）
6月23日：[オンライン] 令和4年度第1回関東圏FD連絡会（法政大学）参加（石川・新井・小濱・仙北谷・原田）
7月9日：[オンライン] 第27回関西大学FDフォーラム参加（小濱）
12月1日：[オンライン] 第12回FD/SD研修会「大学等における聴覚・視覚障害学生に対する合理的配慮の提供事例」（筑波技術大学主催）事例報告（鈴木）
【令和5年】

1月27日：[オンライン] JPFF幹事校・会員校ミーティング参加（新井・小濱）
1月31日：[オンライン] 全国私立大学教職課程協会緊急シンポジウム参加（坂入・関口）

刊行物・WEB公開

【令和4年】
3月1日：『教育開発推進機構紀要』第13号刊行
3月1日：『教育開発ニュース』第25号刊行
6月15日：令和3年度『FD推進助成（甲）事業成果報告書』刊行
10月1日：『教育開発ニュース』第26号刊行
12月1日：令和3年度『授業評価アンケート分析報告書』刊行
【令和5年】
3月1日：『教育開発推進機構紀要』第14号刊行（予定）
3月1日：『教育開発ニュース』第27号刊行（予定）

教育開発推進機構 オンライン講演会・研修会 開催報告

令和4年度 オンラインFD講演会（専任教職員対象）（令和4年12月21日）※オンライン講演

「ユニバーサルデザインの視点をいかした高等教育における学びの支援」
【講師】 阿部 利彦 氏（星槎大学大学院 教育実践研究科 教授）

障がい学生支援や遠隔授業実施支援を通じて、困難を抱える学生に個別に対応・支援をするだけでなく、より包括的に、誰もが授業や各種情報にアクセスできるようにすることの重要性が改めて認識されつつあります。今回は、ユニバーサルデザインの考え方を高等教育にどう活かすかというテーマで、星槎大学大学院の阿部利彦先生にご講演いただきました。

令和4年度 オンラインFD研修会（本年度新任教員対象）※オンデマンド配信

①「國學院大學校史」（令和4年7月21日～10月15日） **【講師】 渡邊 卓 氏（研究開発推進機構 准教授）**
 ②「シラバス・成績評価」（令和4年12月22日～令和5年2月6日） **【講師】 小濱 歩（教育開発推進機構 准教授）**

本年度は、新任教員対象のFD研修を2回、オンデマンド方式で実施しました。7月末は、校史・学術資産研究センターの教員による校史の講座を実施。12月末はシラバスの到達目標記述・学習成果の可視化に関する講座を実施しました。

令和4年度 データサイエンスFD研修会（専任教職員対象）（令和5年2月13日）※オンライン講演

「データ駆動型超スマート社会におけるデータサイエンス教育の進展
 ～なぜ、いま文系学生も含めて必修化が求められているのか？～」
【講師】 渡辺 美智子 氏（立正大学 データサイエンス学部 教授）

文系私立大学である本学においても、社会全体で進展するデジタル化の波とは決して無縁ではられません。新しい社会に適應して生きるための「文系にこそ必要な、文脈を意識したデータの活用能力」をいかにして養成していくのかについて、立正大学データサイエンス学部の渡辺美智子先生にご講演いただきました。

そっ たく どう じ 啖啄同時 — 編集後記 —

教育開発推進機構は平成21（2009）年4月1日に発足し、同年11月4日に本誌第一号が刊行されました。その後、現在に至るまで本学の教育改善の取り組みを十年以上にわたって発信してきました。この間の大学教育を取り巻く環境の変化は著しく、めまぐるしいものでした。アクティブラーニングの導入やデータを活用した教育改善の提案、インクルーシブな教育環境の構築など、新陳代謝のはやさを目の当たりにしました。さらに、この3年の間にはコロナ禍を契機に対応策としてオンライン授業が始まりましたが、たちまち社会に浸透し、もはや一時しのぎにはとどまらない変化を大学教育の世界に及ぼしつつあります。このような流れの中、教育開発推進機構の組織・業務についても整理を行うこととなり、その中でこの『教育開発ニュース』については概ねの役割を終えたと判断し、今号をもって休むこととなりました。最後にお届けするのは、観光まちづくり学部第1期生へのインタビュー、ベストティーチング賞を受賞された先生方のコメント、学生サポーター制度2年間の歩み、そして、本誌の歩みとなります。教育開発推進機構は、これからも卵から孵ろうとする雛の成長を促す親鳥の支え—啖啄同時—の慮いにそって、國學院大學の教育のサポートをしてゆきます。これまでのご愛読に心から感謝し、一端結びいたします。（鈴木）

教育開発推進機構NEWSLETTER『教育開発ニュース！』第27号 令和5年3月1日発行
 発行人 石川 則夫 編集人 小濱 歩・鈴木 崇義
 発行所 國學院大學教育開発推進機構 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28